

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園磯子	種別：保育所
代表者氏名：園長 福富 里美	定員（利用人数）： 70（72）名
所在地： 横浜市磯子区磯子磯子3-13 K Brillia City 横浜磯子	
TEL：045-374-543	ホームページ：https://www.like-kn.co.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2014年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクアカデミー株式会社	
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員 11名
専門職員	保育士 13名 保育士 8名
	栄養士 2名 調理員 2名
	看護師 1名 事務員 1名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	保育室6・厨房1・休憩室1・事務室1・相談室1・多目的室1・浴室室1・トイレ5 鉄筋コンクリート造地上10階建1階部分 屋外遊戯場（園庭）179.13㎡

③理念・基本方針

保育理念：のびやかに育てだいちの芽 あたたかな環境の中で、一人ひとりの心に寄り添い、人や物・自然との豊かな出会いや体験を通して生きていく力を育みます。

保育方針：みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛(信頼・安定・共感)

めざす保育園像：●陽だまりのような保育園 ●地域と共に育つ保育園 ●子どもと共に輝いていける保育園

家庭的で「陽だまり」のような温かな保育園が「にじいろ保育園」です。地域の皆様も気軽に集い子どもたちを中心に保護者、地域住民、保育園が子育ての喜びを共に分かち合い、生き生きと輝いていける保育を目指します。

保育目標：●自然を愛し、心身ともに健やかな子ども

* 歩く、走る、跳ぶなど戸外での活動をとおして、からだを動かす楽しさを知った子ども。

* 自然と親しみ、情緒豊かな心・知的興味や関心を育て、思考力、認識力を培い、科学的に観察する力を持った子ども。

●自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども

* 意欲・想像を掻き立てられる環境の中で子ども自らが主体的に行動し「やってみたい」と思える子ども。

* 様々な遊びや実体験を通じ想像力を養いながら、正しいと思うことが分かり 自分で行動する力困難にも立ち向かい簡単にあきらめない心をもった子ども。

- 「仲間」と関わり、人を思いやれる子ども
 - * 相手の人権を尊重し、思いやりのある子ども。
 - * やさしく愛され見守られる中で、人を愛したり、やさしくすることに喜びを持てる子ども。
- 0歳児～年長児まで異年齢の関わりの中で、現代に薄くなっている兄弟感覚が培われます。
- 自己を表現できる子ども
 - * さまざまな生活の場面で、自分の思いを「自分らしく」表現できる子ども。
 - * 豊かな体験を通して物を見たり・感じたり・考えたりし、喜びや驚きを伝えられる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

- 1.インクルーシブ保育を実践展開し、日常生活の中で多言語の会話が楽しそうに繰り広げている。
- 2.異年齢保育が定着し、散歩も大きな子どもが小さな子どもの手を繋いで慈しみの気持ち培われている。
- 3.コーナー保育が定着し、朝夕の時間は子どもたちが好きな遊びを自主的に選び遊び込んでいる。
- 4.日常的に個々の子どもの変化、発達をつぶさに職員一人ひとりが見つめ、会議や日常会話でもそれぞれの気づきを
伝えあい、シフト勤務で毎日、担任が保護者には会えないが、丁寧に子どもの姿を保護者に手渡している。
- 5.幼保小事業に参加し、近くの保育園に蚕をお裾分けしたり、同じマンション内の他園の年長児との交流も実施していることで、小学校への入学後、顔見知りが多く子どもに安心感が培われている。また、コロナ禍では未実施であったがそれ以前は就学先の小学校5年生が当園に来園してくれ、折り紙制作で紙飛行機や様々を一緒に楽しんで、就学に期待を持つことが出来た。
- 6.地域支援活動ではコロナ禍前には隔週木曜日に地域住民向け「絵本貸し出し」を実施し、当日を楽しみに住民が来園していた。また、その機会に「育児の悩み・喜び等」を助言してきた。地域住民の子育て拠点の一翼を担ってきた。
- 7.育児講座も地域住民向けに開催し喜ばれた。年間を通し地域住民の行事参加も盛んに開催された（コロナ禍前）
- 8.年間を通し「保育園見学」を受け入れ、子育ての不安感解消・仕事復帰に安心感を提供してきた。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月28日（契約日） ～ 2021年12月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成28年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点
子どもが楽しみながら食への関心を持てるように、様々な食育活動を行っている
栄養士は食育計画を作成し、年間計画に基づいて世界の料理・クッキング・郷土料理・食材さわり・三色食品群などに取り組んでいる。行事の際は行事食を提供し、伝統的な食事や食文化を伝えている。食への関心を高めるため、食材に触れる機会を設けたり、夏野菜・冬野菜など栽培して給食で提供し、収穫の喜びや食の大切さを学ぶ機会を設けている。玄関に給食・おやつの写真を展示し人気の給食レシピは、給食だよりに掲載し

保護者が持ち帰り出来るようにして食生活について家庭と連携を図り、子どもとの会話のきっかけにもつなげている。

一人ひとりの子どもが意欲や達成感が持てるような声掛けや援助、機会を設けている保育理念である、「人や物・自然との豊かな出会いや体験を通して生きていく力を育みます。」のもと、職員は、遊びに参加しながら、友だち同士で共同して遊ぶ姿を見守り時には援助して活動できるようにしている。また、一人ひとりの子どもが意欲や達成感が持てるように援助し、遊びが広がるように声かけをしている。子どもの目線の高さに合わせて玩具を置き、子どもが自分で取り出したり片付けたりが出来るようにしている。さらに、自分たちでゲーム遊びを考えたり、ブロックを使ったごっこ遊び、空き箱や木の実などを利用し、自由な発想で製作できるようにしている。また、園庭での自然物への関わりや、園外での木の実ひろいなど自然と触れ合う機会を作り、自然物を使った制作などにも取り組んでいる。

◇改善を求められる点

家庭への伝達方法を工夫し、連携を図りながら保育を行うことを目指している
乳児クラスは個別の連絡帳で詳細に子どもの様子を記載し、保護者に伝えている。幼児クラスは、毎日クラスの活動を写真や活動内容を掲示板に掲示して保護者との共有に努めている。また、送迎時には保護者に家庭の様子を尋ねたりその日の子どもの様子を伝えて情報交換し、週1回ブログを更新して園の様子を伝えている。通年はクラス懇談会で保育理念や保育目標、1年間の保育について説明し個人面談も行っているが、今年度はコロナ感染予防のため行えず、園の取り組み内容を手紙にて配布することで保護者との共有を図っている。更に色々な状況下でもできることでコミュニケーションを図ることを目指している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今年度、第三者評価受審が決まった時点で「今までの保育の総括が出来るチャンスにしよう」との思いで、職員と受審目的を共有しました。主任・副主任が交替の中、受審内容を一つひとつ確認し、チーム磯子の保育内容の良い面・課題を確認しながら取り組みました。コロナ禍という特殊な環境のなか、チームワークの良さで保育内容を確認するベストチャンスに恵まれました。

受審後の課題を全職員で確認し「より良い保育」に繋げる良い機会になりました。ありがとうございました。
にじいろ保育園磯子 職員一同

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり